



15

## 15 高山住吉神社のおひょう府

樹 高：15m 幹周り：0.7、1.1m（2本）

樹 齢：不明 指定年：平成13年2月2日

所在地：豊能町高山226

交 通：千里中央駅から、阪急バス「余野」方面行き  
「高山」下車、北東へ徒歩500m

標高450～500mの住吉神社の奥の社叢に二本のオヒョウの樹がありました。大阪にはオヒョウの樹はこの二本しかありませんでしたが、二年ほど前に、このうちの大きい方の一本が枯れ、幹が倒壊してしまいました。残されたもう一本の樹から挿し木をして次の世代のオヒョウの樹を育てる試みが始まっています。

## オヒョウ

オヒョウはニレ科ニレ属の落葉高木で、日本では主として北海道や東北の山地に自生しています。葉は卵形で先端がいくつかに分かれ、縁にはギザギザ（鋸歯）があり、両面に短い毛が密生しているのが特徴です。果実は幅の広い翼に種子がついた翼果（よくか）です。おひょうの語源は樺太白浦地方のアイヌがこの木の樹皮の名称として使っていたオピウ（apiw）だといわれています。

北海道のアイヌはこの木をアツニ（at＝樹皮の繊維＋ni＝木）と呼び、樹皮の内側の丈夫な繊維を糸に加工して織った布をアットウシ（attus）といいます。アットウシはアイヌの重要な輸出・交易産品でもありました。伝承者は少なくなりましたが、現在も腰機という原始的な機織り具を使って織られています。

高山住吉神社のおひょうは、大阪では唯一といわれており、その貴重さから指定されたものですが、古くから自生していたものか人為的に移植されたものかはわかりません。





16

## 16 弘川寺のかいどう府

樹 高：6m                      幹周り：0.65m  
 樹 齢：200年余              指定年：昭和45年2月20日  
 所在地：河南町大字弘川  
 交 通：近鉄長野線「富田林」駅から、金剛バス「河内」  
 行き終点下車、北東へ徒歩300m

この樹種としては極めて大きいと評価されています。治療の痕跡が残る幹の根元は細くやや痛々しげにみえますが、春になるとたくさんの美しい花を咲かせます。



16

## カイドウ

カイドウは中国原産のバラ科リンゴ属の耐寒性落葉低木から小高木で、ハナカイドウが標準和名です。カイドウの仲間のうち食用に改良されたものがリンゴで、鑑賞用に育種されたものがカイドウだといいます。そのためカイドウの小さな実も熟すと食べることができます。鑑賞用の品種としては古く、園芸用に改良された品種がいくつもありますが、中国でも原生種は見つかっていないようです。

樹高は6～8mとあまり高くなり、灰褐色の樹皮

はリンゴやサクラと同様若木のうちは皮目のある滑らかな肌ですが、老木になると亀裂やはがれが生じます。葉は縁に鋸歯のある卵形で、春にリンゴとよく似た径5cmほどの淡紅色の花を咲かせます。

カイドウは中国では垂絲海棠といい、古来美人を例えるときに使われます。これは玄宗皇帝が酒に酔った楊貴妃のなまめかしい様をほめる言葉としてカイドウを引き合いに出した故事によるものです。





17

## 17 菅原神社のカクレミノ<sup>府</sup>

樹 高：14m 幹周り：1.65m  
 樹 齢：不明 指定年：平成17年1月21日  
 所在地：貝塚市大川485-1  
 交 通：水間鉄道「水間観音」駅から、貝塚市は一もに一  
 ばす「黄バス」線「大川」下車、南へ徒歩800m

貝塚市の山林の中にカクレミノの巨樹があります。この樹は内陸部の山地では珍しく、これだけの巨樹であることも貴重なものだと思います。

周りには多くの雑木があり、静かで、穏やかな雰囲気がただよっています。

## カクレミノ

カクレミノはウコギ科カクレミノ属の常緑小高木で、東西南部から四国、九州、南西諸島に分布します。照葉樹林の林床のやや暗いところでも生育する丈夫な木です。

樹皮は灰褐色でたくさんの皮目が見られ、艶のある葉が枝先に密生します。ごく若い稚樹の間の葉は卵型ですが、幼樹になると切れ込みの深いヤツデの葉のような形になり、成長すると切れ込みの浅い2裂、3裂の葉と卵形の葉が1本の木に混在するようになります。盛夏から秋にかけて花枝の先に毬状に集まった薄緑色の小さな花を咲かせます。果実は1年以上かけて成熟

するため1本の木に花と実の両方が見られることもあります。熟した実は黒紫色で先端に雌しべの花柱が残っており、直径8mmほどの大きめの種子がはいっています。大きな種子や切れ込みの深い幼葉は暗い林内で発芽したりより多くの日光を取り入れる必要のある初期の生存に有利なように適応した結果だといわれています。

庭木や鉢植えとして鑑賞用にもされることも多い木ですが、樹液に漆と同じウルシオールを含むためかぶれることがあるので注意が必要です。かつては漆器の製作に使われたこともありました。





118

## 18 岬住吉神社のうばめがし社叢府

樹 高： 幹周り：0.9～1.5 m  
 樹 齢：社叢林 指定年：昭和45年2月20日  
 所在地：岬町大字小島  
 交 通：南海多奈川線「多奈川」駅から、ミニループバス  
 「小島住吉」行き終点下車、北へ徒歩300 m

大阪府最南端、海を臨む住吉崎の海食崖の上に神社があります。その神社の社叢として保護されているのがこのウバメガシ群です。海風にさらされるという厳しい環境の中でも長い年月を生き抜き、幹周り1.5 mとなるまでに育っている樹もあります。地域全体にわたって広がるウバメガシの社叢は府下では稀有な存在です。

## カシ

カシはブナ科コナラ属の常緑樹の総称で、アカガシ、シラカシ、ウバメガシ、イチイガシなどが含まれますが、ブナ科マテバシイ属のシリブカガシなどドンダリのなる木は、俗称としてはカシの仲間に入ります。アカガシ亜属のアカガシやシラカシは高木になりますが、コナラ亜属のウバメガシなどは中・低木です。

中国では初期の稲作を行っていた遺跡で大量のドンダリが発掘されており、日本でも縄文時代にはあく抜き（注）の技法が確立されていて、栗や栃の実と並ぶ重要な

食糧であったことが知られています。

ウバメガシは生垣や防風林として植えられるほか、アカガシやシラカシの材は緻密で強く折れにくいいため、農具や工具の柄、武具などに加工されます。しなやかな性質を持ったイチイガシは、縄文時代や弥生時代には弓として利用されました。また、備長炭のような上質の炭にもなることから、古くから人間とのかかわりの深い木です。





19

## 19 美多弥神社の しりぶかがし社叢府

樹高： 幹周り：  
樹齢：社叢林 指定年：昭和48年3月30日  
所在地：堺市鴨谷台1丁49-1  
交通：泉北高速鉄道「光明池」駅下車、東へ徒歩1.6km

美多弥神社のシリブカガシ社叢は、ニュータウン建設が進められた泉北丘陵地域において、古い林の姿をとどめる貴重な場所です。秋になると、その名の由来であるお尻のところかくぼんだドングリが次々と樹から落下する音が林にこだまし、都会の喧騒を忘れさせてくれます。

## 20 天王のあかがし府

樹高：18m 幹周り：5.2m  
樹齢：400から500年 指定年：昭和58年5月2日  
所在地：能勢町天王94  
交通：能勢電鉄「山下」駅から、阪急バス「能勢の郷」行き「砂原橋」下車、北へ徒歩7km

国道173号線（綾部街道）の天王峠のトンネルの手前から天王神社の旧境内へ登る石段のわきの看板を目印に、今は小さな祠だけが残る雑木林に足を踏み入ると、二本のアカガシの巨樹がそびえ立ち、なんとも神聖な雰囲気が漂っています。一本のアカガシは三本の幹が融合したもので、幹の下部に空洞があるものの、その樹だけで照葉樹林の雄大さと優しさを体現しています。



20